キャラクター名: 鬼龍院　蓮

プレイヤー名:

シンドローム	キュマイラ バロール	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	男
覚醒	死	衝動	解放	初期侵食率	36 %
出自	疎まれた子	経験	約束	邂逅	友人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	3	1	0			4
感覚	1	0	0			1
精神	2	0	0			2
社会	2	0	0			2

HP	30
行動値	4
(非装備時)	4
戦闘移動	9
全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	5		射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
魔拳グラム	白兵	4r+5	8	10		1+2　浸食値：5　攻撃力：10
魔拳グラム	白兵	4r+5	7	12		1+2　浸食値：5　攻撃力：12
魔拳ダインスレイヴ	白兵	7r+5	8	10		1+2　浸食値：5　@完全獣化
魔拳ダインスレイヴ	白兵	8r+5	7	12		1+2　浸食値：5　@完全獣化

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
あの日の約束	P　憧憬	N　不安		
家族	P 幸福感	N　恐怖		
	P　庇護	N　憎悪		
	P　友情	N　不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト：バロール	2	2	メジャー	-	-	-		
効果：	C−LV［下限7］							
漆黒の拳	1	3	メジャー	武器	単体	白兵	-	
効果：	装甲無視＋攻撃力LV							
斥力跳躍	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	移動力［LV×5］							
破壊の爪	1	3	マイナー	視界	自身	自動	-	
効果：	素手データが以下に変更。種別：白兵　技能：〈白兵〉　命中：0　攻撃力：＋［LV+8］　ガード値：1　射程：至近							
完全獣化	1	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	【肉体】使用判定ダイス＋[LV+2]個。アイテム使用装備不可。							
復讐の刃	2	6	オート	至近	単体	白兵	-	
効果：	攻撃されたタイミングでリアクションを放棄して白兵攻撃を行う							
神獣撃	1	2	メジャー	武器	単体	白兵	80	
効果：	攻撃力を+[LV+2]D　《完全獣化》							
帝王の時間	1	-	メジャー	至近	自身	自動成功	-	
効果：								
眠れる遺伝子	1	-	常時	至近	自身	-	-	
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

ひ弱な少年であり思いやりが強くただただ優しい少年。
自分が何かすごい人間だと思ってないしむしろ自身を持って何かをできると思っているわけではない。
誰かに恋心を抱くのも勇気がなく一歩踏み出せないような、そんな絵に描いたようなヘタレである。
誰にも負けない者と言えば優しさぐらいだろうか、勇気はなくとも優しさはあると言い張れるぐらいである（本人はそう言わない）
クラスでも成績が良くとも非力な大人しい子、というのが今の彼の立ち位置だろう。
好きな事は読書と猫を撫でる事。
好意を抱いている人はいるが全くもってヘタレで全く一歩すらも進んでない、やはりヘタレめ

恐らくシナリオ終了後
普通の学生だった少年。性格はやわらかくまた臆病者で喧嘩などできず蟲も殺せないような人物である。
非常に大人しく全く持って人を傷つけられないような性格の大人しい男子学生・・・のはずだった。
通常の生活を続けていられれば気づかなかったそれは、自身の死によって目覚めたのだ。
自分の中に潜む何か、それは弱い自分を違う強い自分に変えてしまう程のものだった。
自分に自信が無くて大人しい少年だった蓮は、全く真逆の優しさが消えたような苛烈な人格の蓮にへと変わる。
能力や変化の経験に耐えられずにその人格が生まれ、力を解放すれば人格が別の何かにへと変貌してしまうのだ。
日常を見ている人間なら分かるだろう、全く別人になってしまっていると。
本人もその事には気が付いておりむしろ自身が変化しているところを見ているがためにその姿を好ましくは思ってはいない
ただ戦うために、もしも何かを守るために必要ならば、そのカを使って彼は戦うのだろう。